

高齢者の地域ボランティア活動レディネス尺度の開発と信頼性・妥当性の検討 藤谷 未来

I. 序論

ボランティアは、健康や生きがい感に影響を及ぼす社会活動であり、介護保険サービスの担い手に組み込まれる等、高齢者のボランティア参加が期待されている。しかし、加齢性変化や健康状態の不安定さ等から、参加意欲だけではボランティア活動に至らない可能性があるため、環境や条件等のレディネスを測定する用具が必要である。

II. 研究目的

高齢者の地域ボランティア活動レディネス尺度を開発し、信頼性と妥当性を検討する。

III. 研究方法

文献検討とインタビュー結果からアイテムプールを作成し、5名の専門家による内容妥当性の検討を重ね、本尺度は【高齢者主体の無理のない活動】【活動しやすい環境】【個人的な活動条件】【参加意欲】の4因子29項目から構成され、独立した下位尺度を有すると仮定した。2回の予備調査を経て、4因子20項目を尺度項目とし、これに属性を加えたものを調査項目として3回目調査を行った。北海道の平均高齢化率を上回る中小規模の市町村を無作為抽出法により選定し、該当した5市35町村の自治体等から65歳以上のボランティアをしていない354名の紹介を受けた。対象者に10分程度の電話調査を行い、探索的因子分析（主因子法、バリマックス回転）により項目を分析した。信頼性は再検査法とCronbachの α 係数を、妥当性は確認的因子分析と既知グループ法により検討を行った。調査にあたり、所属大学の研究倫理委員会の承認を得た（承認番号021-384）。

IV. 結果

分析対象者は205名（有効回答率94.0%）である。因子分析の結果、【条件に適した無理のない活動】【助け合える仲間の存在】【互恵的感情】【経済的条件】の4下位尺度16項目が抽出され、【互恵的感情】と【経済的条件】の間に有意な相関がみられなかった（ $r = .03$ ）。

再検査法では $r = .405 \sim .638$ （ $p < .001$ ）、Cronbachの α 係数は各下位尺度で.741～.916を示した。

適合度指数は、GFI = .863、AGFI = .810、CFI = .904、RMSEA = .102であり、既知グループ法においては、身体的に不自由がある群とない群の比較をしたところ、有意な差は見られない等（ $U = 2628.50$, $p = .0822$ ）、仮説を支持しない結果となった。

V. 考察

3回の調査の結果、本尺度は仮定した概念に近く、独立した下位尺度を有すると考えられる。そのため、尺度活用の際は、下位尺度毎に得点を出し総合的に判断する必要がある。

一部の下位尺度において安定性が不十分であるが、Cronbachの α 係数から内的整合性は確保でき、信頼性は概ね支持されたと考える。判別的妥当性は確保できなかったが、モデル適合度は一部を除き良好な結果であり、妥当性も概ね確保されたとと言える。

VI. 結論

本尺度は4下位尺度16項目から構成された。信頼性と妥当性は概ね確保されており、使用可能な尺度と言える。